

旧八事村の遺跡を訪ねて

佐治 學（故人）

旧八事村は天白川の右岸の平地と八事山地（八事山、八事裏山、八幡山、音聞山、八事表山）から構成されており、平地の大部分は畠地、田んぼ、水路、道と2つの屋敷（人の居住地）からなり、山地の大部分は御林地（藩有林）で定納山（対価を納めて利用できる山林）、寺地、神社、三昧（墓地や小堂）、池地からなっています。

人が定住し始めた時期は明確ではありませんが、平安時代に天台宗の大聖寺が表山に建立され、八事荘の莊園主として八事村、植田村、島田村を支配していました。神社は八幡社、高峯神社、一之御前社、白山宮、山の神が古くから祀られていました。明治時代に一村一社制の政策で、八幡社に八事神社として合祀されました。高峯神社と一之御前社の旧跡地は残っています。また江戸時代に豪農山田氏が鹽竈神社の分社をもたらしました。寺院は、前述の大聖寺は江戸時代後期の暴風で崩壊し、下八事に移されました。大聖寺の学問所が独立した真言宗の不動山大学院、曹洞宗の仏地院、観音寺、そして大正9年に天台寺門宗の日光院が表山に移転してきました。

江戸初期に駿河街道が開かれ、村中の道と数か所で繋がりました。

- ①島田に至る地蔵道は、八事石坂で駿河街道から分岐して、きよの坂、仏地院の前を通り、天白川を渡って島田と繋がる道です。
- ②平針からのあつた道（平針から島田までは地蔵道と重なっている）は天白川を渡り、地蔵道と分かれて、下八事屋敷を経て中根村から熱田に至る道です。
- ③山畔道（やまぐろのみち）が駿河街道の塩釜口から八幡山、音聞山、表山の山裾に従い曲がりくねりながら東西に通って、昭和高校の北側で瑞穂丘陵の裾に連なっていました。
- ④村中の道が高峯神社から山畔道と交わり、上八事屋敷（旧仏地院跡）を通り下八事屋敷（一之御前社跡、不動山大学院）に至り、あつた道と交わっていました。
- ⑤神社、寺、墓地、定納山、池地、耕作地と屋敷を繋ぐ道が南北に数本ありました。水路は池尻から道に沿って作られていましたが、これら村中の道、水路は耕地整理や宅地開発でほとんど消えてしまいました。しかし部分的にその名残は残っています。
- ⑥八事表山の下池からの水路は中根村境を南北に繋がっていて（現在の昭和高校前のバス道）、中根公園を通る中井用水となっていました。1976年の住宅地図には明記されていますが、現在は上池、下池とも埋め立てられ、水路は暗渠になっています。

